

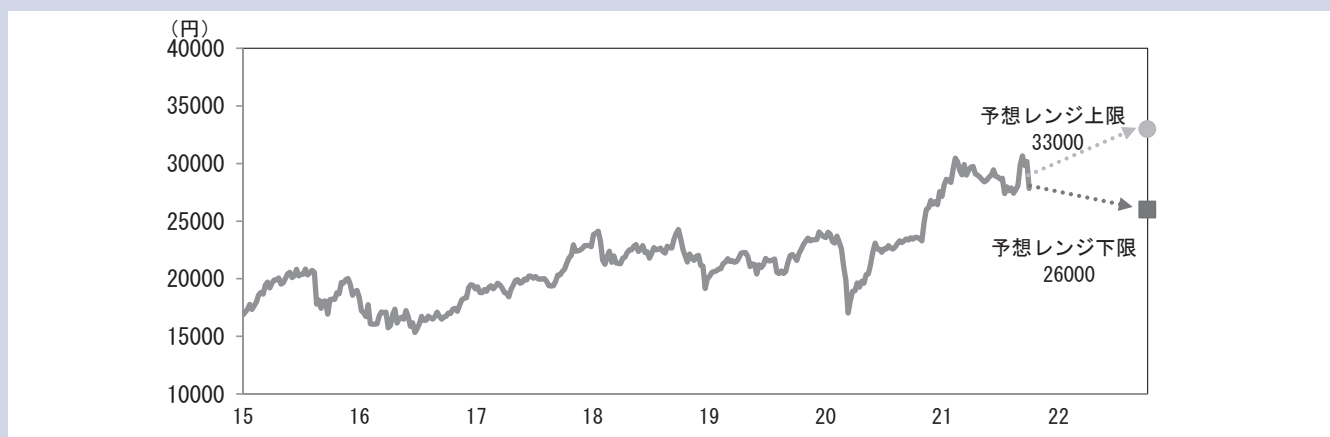
向こう1年間の市場見通し (10月6日時点)

予想コメント

	コメント
株式	日本株は世界的な金融緩和が続く下、企業業績の回復傾向が強まることで、高値圏推移を見込む。FRBの量的緩和の段階的縮小は織り込まれており、リスクは低減しつつある。ただし、資源価格の高騰は要注意。価格転嫁が進まず、企業収益を圧迫する可能性がある。
ドル円	為替は、米長期金利上昇に伴う日米金利差拡大によって、円安傾向への推移が見込まれる。もっとも、日米金利差の絶対水準が小幅なこともあり、大幅な変動は見込まれない。
金利	日銀は長期金利の誘導目標を「0%程度」に据え置く公算が大きい。金利上昇を断固抑える姿勢を示しており、10年金利が0.25%を超える可能性は低い。短期金利は▲0.1%で不変の見込み。金融緩和の副作用が蓄積しており、マイナス金利深掘りの可能性は低い。

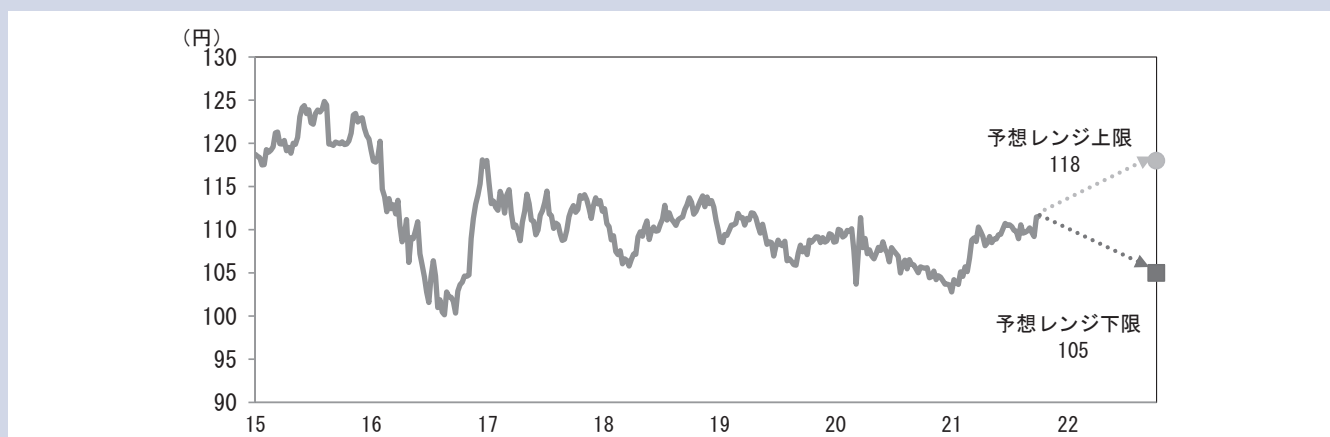
(注)記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

向こう1年間の日経平均株価



(出所)Refinitivより第一生命経済研究所作成

向こう1年間のドル円相場



(出所)Refinitivより第一生命経済研究所作成